

8月例会開催

～映像配信による新しい様式の例会～

令和2年8月20日、当会現役会員に向けて8月例会の映像データがインターネットを通じて配信された。

新型コロナウイルスの影響を受け、第46期期首に高塚会長から会の活動に関するガイドラインが発表されており、例会は状況に対応できるように企画・準備する事となった。

+

当例会は8月に入って鳥取県内で新型コロナウイルスの感染拡大が広がり「鳥取県版新型コロナ警報」が発令された事から、ガイドラインに則って参加者を限定する縮小開催となり、例会に直接参加しなかった多くの会員へ向けてその様子を録画した映像が配信された。



例会冒頭、高塚会長の挨拶では、まず8月例会が縮小開催となった経緯の説明がなされた。ひき続き、7月は予定通り通常総会及び卒会式を開催できた事を挙げられ、コロナ禍でも活動の歩みを止めなかった事が結果に繋がったと評された。

そして、今年4月から6月の経済成長率が戦後最悪のマイナス成長だった事に触れられ、この状況をどのように打破していくのか。また、今後どのように再び成長していくのか。厳しい状況下ではあるが、我々経済人それぞれで考えていく必要があり、また当会も今後どのように活動していくかを考える。その積み重ねが大事であると述べられた。

+

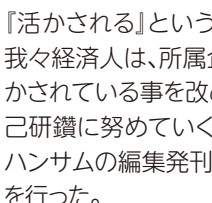
当例会は、第46期の各委員長が1年間の委員会活動の所信表明を行う例会となった。



総務委員会の山内委員長は、活動テーマを「人から学び、力を育む」とされ、これまでの中央会活動の経験から、先輩・同期・後輩から様々な学びを得た事が財産となったと述べられた。その学びをしっかりと腹に落とし、成長する事をテーマに掲げられた。



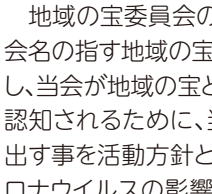
継続実行委員会の安達委員長は、当会が抱える継続事業、皆生トライアスロンボランティアと大山お地蔵さまフェスティバルについて、様変わりしていく当会が今後これらの事業を継続していくための検討を行うとし、活動テーマを「Renovation」と掲げられた。



ビジネスメディア委員会の柏木委員長は、『活かされる』という活動テーマを掲げ、我々経済人は、所属企業や地域社会に活かされている事を改めて自覚し、1年間自己研鑽に努めていくとした。また、広報誌ハンサムの編集発行を行う編集部を紹介を行った。



政治行政委員会の仲佐委員長は、活動テーマを『謙虚』とし、常に何かを学ぶ姿勢が大事であり、仲間と共に学び共に成長していきたいという思いを述べられた。社会的諸活動の地方における課題として新型コロナウイルスの影響を挙げられ、今後地方経済はどのように新型コロナウイルスと付き合っていくのかを考察する活動を予定している。



地域の宝委員会の中西委員長は、委員会名の指す地域の宝を西部青年中央会とし、当会が地域の宝として地元社会により認知されるために、当会の良さを見付け出す事を活動方針とされた。また、新型コロナウイルスの影響下で活動がままならない会員にプラスになる事を考察するとし、これらの活動を『発掘』として活動テーマとして挙げられた。

以上5人の委員長の気合いの入った発表で、第46期の幕が上がることとなった。

(記事:石田)

8月例会を終えて

総務委員会 山内 正樹委員長 (有限会社サンキュービルド 代表取締役)



当初の例会企画は45期にご卒業された皆様をお招きしての事業としていましたが、鳥取県版コロナ警報が発令されたことを受け、46期各委員会の所信表明を映像配信で行う形とさせていただきます。まずはお忙しい中、参加表明をいただきました45期卒会者の皆様に感謝を申し上げます。

高塚会長が46期最初の例会担当を正副委員長とされた意義を、正副委員長全員が感じ企画運営を行いました。映像配信ではありましたが、各委員長の緊張感や思いが伝わるよう、通常開催と同じような流れで一発撮影を行いました。伝わりましたでしょうか？また映像にこそ登場しませんが、撮影の裏側で各副委員長の活躍があったこともお伝えさせていただきます。

今年度の例会は開催手段を常に問われることとなりますが、高塚会長が示される「コロナ禍だから出来ない、ではなくコロナ禍だからこそ出来る」ことを模索し、会員の皆様にとって有意義な例会企画を行っていくことこそ、リーダーを任された我々46期正副委員長の使命であると感じました。来月からは各委員会担当による例会が始まります。今後の例会にぜひご期待ください！ありがとうございました！

県出向ご挨拶



県出向理事 安藤 睦男

山陰フェンス工業有限会社

第46期県出向理事を拝命しました安藤睦男と申します。この度初めて理事ということでわからない部分も多々ありますが、西部の代表として東部、中部、西部を繋げる架け橋として精一杯頑張っております。

また、東部、中部の方々ととの地区を超えた仲間づくりができるよう親睦を深め、各事業へ取り組んでいきたいと思っております。西部の会員が参加してよかったと言われる事業になるよう精一杯頑張っております。1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。



県出向理事 住 真介

住法律事務所

7月県通常総会にて県出向理事の承認をいただき、ありがとうございました。今期富田県会長が掲げられた「相利共生」のテーマのもと、会員の皆様が地区や業種の垣根を越え、会員同士交流を重ね互いに切磋琢磨して成長できるよう、県役員として尽力したいと思います。そして、西部の皆様に関心をもって参加していただけるような事業を準備したいと思いますので、1年間どうぞよろしくお願い致します。



県出向理事 渡邊 公平

有限会社渡辺商店 主任

第46期県出向理事を拝命いたしました渡邊公平です。この度初めての県役員を経験させていただきますが、今期の富田県会長の掲げたテーマ「相利共生」の下、東部・中部・西部の会員が地区の垣根を越えて親睦が

図れるように県事業を盛り上げていきたいと思っております。皆様に参加して頂き、良い県事業だったと言って頂くために一年間尽力して参りますので宜しくお願い致します。



県出向監事 松井 淳一

有限会社渡部 取締役 副社長

46期県監事をさせていただきます松井です。役職柄、東中西の違いを目の当たりにする機会が多いのですが、コロナ禍における会合のオンライン対応など東部や中部の柔軟性がとても際立つように感じることがあります。ただ、西部の良さである実直さや細部への拘りも随所に他地区へ感じてもらえるように、東中西で切磋琢磨できればと思います。最終年度になりますが少しでもお役に立てるよう頑張りたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

副委員長抱負

総務委員会

景山 慎也

サンクリーン株式会社 取締役営業部長



第46期総務委員会副委員長を務めさせていただきます景山慎也です。

委員長が掲げられたテーマ、「人から学び、力を育む」をしっかりと理解し、中央会の屋台骨と言われる総務委員会を会員の皆さんと力を合わせて盛り上げていきたいと思っております。1年間どうぞ宜しくお願い致します。

ビジネスメディア委員会

谷村 祐也

美保テクノス株式会社 営業部 主任



第46期ビジネスメディア委員会の副委員長を務めさせていただきます谷村祐也です。委員会メンバーの土台となり、委員会をしっかりと支えていきたいと思っております。

柏木委員長の下、委員会メンバーと一致団結し、高品質のハンサムを皆様のお手元にお届け致します。

感謝の気持ちを忘れずに精一杯頑張っておりますので、1年間宜しくお願い致します。

継続実行委員会

新井 翔太

サンイン・フーズ株式会社 営業部 係長



第46期継続実行委員会副委員長を務めさせていただきます新井翔太と申します。この委員会では、高塚会長よりお地蔵さまプロジェクト、全日本トリアスロン皆生大会と大きな課題を頂きました。

第1回の委員会で感じましたが、この素晴らしいメンバーと一緒に安達委員長の考えのもと1年間副委員長として務めて参りますので宜しくお願い致します。

地域の宝委員会

宇佐見 啓輔

エレックス株式会社 執行役員 システム部 部長



第46期地域の宝委員会の副委員長を務めさせていただきます宇佐見啓輔です。副委員長は大変だとよく耳にしますが、委員会メンバーと深く関わり合え面白かったと言われる方もいます。1年後に面白かったと言えるよう、そして委員会の皆さん、会員の皆さんの為になるよう、中西委員長と共に頑張っていきますので、どうぞよろしくお願い致します。また、軽食等にも地域の宝を取り込んでいきますので、当会HPの委員会ブログもご注目下さい！

政治行政委員会

濱 真一

株式会社カーロード山陰 専務取締役



政治行政委員会の副委員長を務めさせていただきます濱真一です。

政治行政委員会の委員会テーマは謙虚です。謙虚とは何ものからも学ぶ気持ち、姿勢だと委員長が話されていました。委員長の思い考えを委員会メンバーで叶えるための、政治行政委員会の潤滑油として頑張っていきます。

第46期ハンサム連載『会社の「当たり前」をやめた!』

今期のハンサムでは、『会社の「当たり前」をやめた!』と題して、今までにない取り組み・発想を創り出したことや、事業を見直し、会社の新たな可能性が広がったことなどにフォーカスして連載していきます。そして連載記事を通して、自分自身や会社の先入観・価値観を破壊し、新たな事業を創り出すキッカケになるような記事にしていきたいと考えております。どうぞ毎月のハンサムをお楽しみにして下さい。

第46期ビジネスメディア委員会 柏木克仁 委員長



『会社の「当たり前」をやめた!』Vol.1

逆境に負けない! アマチュアサッカークラブの挑戦

第一編集部/下村英一(リーダー)、渡部直哉、住真介、原正史

インタビュー:Yonago Genki SC
監督 紀川匡彦(きがわ まさひこ)

新型コロナウイルス感染拡大の影響はスポーツ界にも影響を与えています。米子市を拠点に活動しているサッカークラブYonago Genki SCが、新型コロナウイルスの影響で活動を制限される中でどのように活動しているか、またその活動がどのような効果をチームに与えているのか監督の紀川匡彦さんに取材しました。

—Yonago Genki SCのこれまでの歩みと活動内容を教えてください。

1992年に元気SCとして設立され、今はYonago Genki SCに改称し活動しております。活動内容は社会人が集まりアマチュアサッカークラブとして中国リーグというカテゴリーで戦っております。また小中学生を対象にしたサッカースクールを開催する等、社会貢献にも力を入れています。

—スマホアプリ『LINE』を活用したトレーニングを行ったきっかけを教えてください。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、社会人として感染防止に努める義務があります。その中で練習をしないとが集まらない等の自粛を皆さんされていますが、私の思いとしては活動をやめる必要はない。何もしない何も考えない自粛ではなく何もしないだけです。『何か選手と一緒に出来ること』を考え、オンライントレーニングなら感染拡大防止に努めながら家でもトレーニングが出来ると考えました。



—実際に導入してみて皆さんの反応はどうか。また成果はありましたか。

オンラインだと発言し辛かったり、家だと家族の声も入ってきて聞こえにくいという難点もあります。しかしそれが必ずしも欠点というわけではなく、今まで知らなかった選手の家での様子などが知ることが出来て、選手間のコミュニケーションや一体感を強めるきっかけにもなっています。選手の奥さんによってはやめてという声もありましたがおかげで家がキレイになったりもしたみたいです(笑)。

家の中だと走ることが出来ないで、柔軟性や体の使い方重点を置いてトレーニングしました。プロも活動を再開した中で、トレーニング不足による筋肉系のケガが非常に多いのですが我々は奇跡的にゼロです。活動が制限される中でもコツコツ積み上げた成果ですね。

—スクールを始めたきっかけを教えてください。

私達はサッカーを通じて人と人が繋がるというテーマで活動しています。私は米子出身で県外の大学に進学しましたが、米子が好きで帰ってきました。なので米子を好きになってほしい。スクールを通して自分たちの技術や経験を伝え、大人になった時に米子で働きながらサッカーをしたり、米子を好きになってくれるきっかけにGenki SCがなればと思います。

—サッカースクールでも動画を利用したトレーニングをされていますよね。

スクールにおいてもきっかけは先程と同じで、子供達に危険を及ぼしてはいけないと思い一度活動を止めようとした。でも子供たちはサッカーがしたいという思いが強かったので、保護者と相談して動画を活用することにしました。動画による練習メニューを保護者に送り、それを子供に実践してもらおう。全てではないですが子供の練習動画を返信してもらいアドバイスをしています。

習慣というのはすごく大事なので、やらなくなるとやらなくていい理由を探すようになってしまいます。そうではなく『この状況でも出来る事がある』ということ

提案することで、成長や考えるきっかけになればと思い導入することにしました。

—スクールにおいては保護者の協力が必要だと思いますが、保護者の方々はどう思われていますか。

動画だとタイムリーな情報発信は出来ないのではと否定的な意見もありましたが、そこは子供の為に協力頂くようお願いしました。

チャレンジ動画という課題を送って子供たちに実践してもらおうようにしていましたが、いつの間にか親も一緒に参加するようになり、親子関係を築く一つのツールとして親子で楽しんでもらっています。

—オンラインや動画だからこそ難しい部分はありますか。

言葉だけで伝える難しさがあります。言葉を噛み砕いて適切に伝えないと、違った事をすれば故障の原因にもなりかねません。スクールでも同じで、大人だと伝える言葉でも子供には伝わらなかつたりますので、そこは私やトレーナーの伝える力が試される部分であり成長しなければならぬですね。

—今は普段通りの活動もされていると思いますが、今後もリモートでの活動は続けますか。

中国リーグは元プロとかレベルの高い選手が多くいるリーグで、その中で自分たちはそれぞれ企業に所属し、週3回練習していますが今以上に練習時間を増やすのは難しいです。また新型コロナの影響でグラウンドが使えない事もあります。オンラインなら場所を選ばず、忙しい中集まる時間を省き、家に帰ってから出来る事が分かったのでトレーニングの効率も良くなりました。

スクールは今まで保護者は練習場所に送り迎えするだけでした。しかし保護者を巻き込む事で保護者にも主体性が生まれ、積極的に参加してもらえるようになったのでうれしいです。子供達にもトレーニングの成果が如実に表れているので良かったです。

新型コロナの影響で活動が制限されましたが、制限された中で出来る事を考え、実行した結果がクラブの大きな財産となったので今後も続けたいですね。

—今後の目標や挑戦したい事はありますか。

地域のイベントに参加する等の地域貢献をしていきたいですね。その中で『米子にはGenkiがいるよね』とか『面白い人たちがだね』と知ってもらい地元で愛されるクラブになりたいです。そのためには結果も残さなければいけないし、人として成長もしなければならぬ。色々な意味でチームとして質を高めていくようこれからも頑張ります!

インタビューを終えて

新型コロナウイルスの影響により活動が制限される中、そんな状況でも選手やスクール生の為に何が出来るのか考え、家でも出来るオンラインや動画によるトレーニングを導入されました。導入したことにより、選手間の信頼関係の構築、フィジカル面の向上、スクールでは親子関係を築く1つのツールという新たな価値が生まれました。

日々刻々と変わる状況の中、このように柔軟で迅速な対応が必要だと思います。企業もこれまで『当たり前』に取っていた行動を見直し、状況に合わせて新しい価値を創造することで企業価値の向上やお客様というファンが出来るのではないのでしょうか。



会長連載

勇気ある一步

～クールヘッド・ホットハート～

第46期 会長 高塚 康治

皆さん、改めましてこんばんは。いよいよ第46期がスタートいたしました。この会長連載も1年間よろしくお願ひいたします。コロナ禍のなか、舵取りがとて難しく、8月例会も縮小開催といたしました。くじけずあきらめずなんとか粘り、できることを会員一人ひとりが考えながら萎縮することなく会を運営していきたいと考えております。「やらない」決断をすることはとても簡単ですが、我々には会員の皆さまへ学びの機会を提供する義務があると考え、事業を計画しております。物事を冷静にとらえ、考え、決めたことは情熱をもって本気で取り組む。会員一丸となり歩んでまいりますので、皆さまご協力、よろしくお願ひいたします!!

仕事の流儀

俵 陽介(株式会社 石田コーポレーション 課長)



当社は、昭和45年 管工機材の専門商社として創業しました。その後、企業理念であります「水の如く」のように枠にとらわれず管工機材だけでなく、土木資材、空調換気機器、建築資材、住宅設備機器など幅広く分野を拡大し、メーカーと

ユーザーを繋ぐ流通を円滑にし、ユーザーに適正な資材・商品を提供し地域社会に貢献して参りました。さらに建築材料、住宅設備機器業界最大手企業「LIXIL」の代理店となり、販売だけでなく施工、外壁診断なども行います。他にも、不動産取引、海外事業など、専門商社ではなく総合商社へ事業を展開しております。

私は設備業者様に対し民間工事や公共工事へのガス・上水道・給排水資材や空調換気機器そして住宅設備機器などの商材を営業し見積り、受発注、納入まで請け負っています。

営業の仕事で最も大切なのは信用だと思います。人間として、そして卸売業者として確かな仕事をする存在だと感じてもらえることが重要だと感じています。

これからも様々な分野に挑戦し続け、およそ50年に及び培ってきた信頼と実績をますます拡大し、地域に根差した山陰に無くてはならない総合商社として暮らしの快適に貢献し続けられるよう、私自身も日々努力して参ります。

現役ナンバー1

高見秀幸(株式会社さんれいフーズ 副参事)



私は現役ナンバーワンの「クッキングパパ」です。職業柄、様々な食材に触れることが多く、家で実際に食材を料理し食べるのが大好きです。さらには私の特権として得意先のホテル、旅館、レストラン、居酒屋などの料理長やシェフが調理される姿を生で見られる機会があります。プロの料理人の包丁さばきや盛り付けを真似てみるのも大好きです。

先日はポルチーニクリームソースを使ってパスタを作りました。既製品の pasta ソースですが少し前までは明らかに既製品といった味のクオリティーでしたが、最近ではまるでクックさんが作ったようなおいしさです。ひと手間加えて、牛肉をソテーして盛り付けました。見て美味しい、食べておいしい料理に家族が笑顔になりました。料理って本当にいいものですね!



新入会員



いし い みち はる 石井道治 〇型

かばはうすホールディングス(株)米子駅前店
副店長 飲食業(居酒屋)
〒692-0011 島根県安来市安来町2903-4
TEL:0854-23-1113 FAX:0854-21-0202

R02.08(R02年度)入会
(推薦者)中村(友)
山内(正)

〈コメント〉皆様はじめまして。かばはうすホールディングス(株)の石井道治です。様々な企業さまのお考えや繋がりが、経験を積ませて頂く事で、私や会社におきましても財産として築いていけるように努めますので宜しくお願い致します。

9月役員会報告

令和2年9月1日(火)米子市公会堂 集会室1・2にて9月役員会が開催されました。議題は以下の通りです。

- ・第6回大山お地蔵さまフェスティバル第1回実行委員会の開催について
- ・9月例会開催の審議
- ・10月例会開催の協議
- ・その他

※なお、詳細については各委員長までご確認ください。

編集後記

連載企画の会社の「当たり前」をやめた!において人生初のインタビュアーをさせて頂きました。人からお話を引き出すのも難しいものですね。とても勉強になりました。

快くインタビューを引き受けてくださった紀川監督、本当にありがとうございました!!

(広報委員会 下村)